

飯塚市がめざす教育 No.5

飯塚市学校教育プラン

生徒指導の充実

人権教育の推進

国際交流の推進

特別支援教育の充実

ICT教育の推進

学校危機管理の徹底

学社連携の推進

小中一貫教育の推進

本物志向

未来志向

平成27年4月

飯塚市教育委員会



飯塚市の教育施策

飯塚市がめざす教育

～未来の飯塚市を担う「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成～

未来の飯塚市を担う「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもを育成するため、学力の向上を重点課題に掲げ小中一貫教育の推進を図っていきます。

「かしこく」「やさしく」「たくましい」 子どもの育成

●徹底反復学習の実施

- ・陰山メソッド
- ・小河式プリントの活用

※陰山英男氏・小河勝氏との連携

●多層指導モデル MIM

※国立特別支援教育総合研究所
(海津亜希子氏)との連携

●生徒指導の充実

●基本的生活習慣の向上

●特別支援教育の充実

コミュニケーション能力
(受け止める力・伝える力)

コラボレーション能力
(協働してつくりあげる力)

イノベーション能力
(新たにものを生み出そうとする力)

育成

学力向上

豊かな人間性の育成

体力向上

●協調学習の推進

- ・知識構成型ジグソー法
- ※東京大学(三宅なほみ氏)との連携

●社会性の育成のための SEL-8Sの推進

※福岡教育大学(小泉令三氏)との連携

●国際教育の推進

- ・サニーバール市との交流

●ICT活用の推進

本物志向

- ・教育の質の追究
- ・凡事徹底
- ・指導と評価の一体化

未来志向

- ・21世紀を生き抜く力の育成
実践力(人間関係形成力・社会参画力等)
思考力(問題解決・創造力等)
基礎力(言語・数量・情報スキル)

小中一貫教育の推進

- 後期：中2 中3 → 主体性・社会性の育成
- 中期：小5 小6 中1 → 自尊感情の高揚
- 前期：小1 小2 小3 小4 → 基礎基本の定着

学社連携の推進

飯塚市が進める早期支援教育

平成 27 年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業

小学校第 1 学年の指導で「きって」や「おとうさん」のように小さい文字や伸ばす音など「特殊音節」を身に付けさせることは重要です。「特殊音節」につまずくと国語の学習のみでなく、他の学習、さらには、日常生活にまで支障をきたすと言われていました。

そこで、9年間を見通した早期の段階で、子どもがつまずく前、又はつまずきが深刻化する前に、体を使って表現し、楽しみながら読みの力を育ていくプログラムが、多層指導モデル「MIM」です。飯塚市では、MIMの指導を行うことを中心にして、通常の学級において、学習面、特に「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもが理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の工夫改善を行い、効果を上げています。



さらに、発達障がい傾向がある児童に対して、スクールカウンセラーや発達障がい支援アドバイザーによる観察教育相談を実施し、特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する早期支援に取り組んでいます。(平成26年度より文部科学省委託)

第2学年 NRT学力検査結果		23年4月 (MIM実施前)	24年4月 (MIM1年目)	25年4月 (MIM2年目)	26年4月 (MIM3年目)
国語(偏差値)		52.5	53.5	53.5	54.4
全国比	話す聞く	105	107	109	110
	書く	108	106	106	108
	読む	108	113	113	115
	言語事項	106	109	108	112

学習面で特別な教育的ニーズのある子どもの早期支援の在り方についての究明 ・教育相談の実施 ・関係機関との連携やスクールカウンセラー等の活用

教育委員会の取組

発達障がい支援アドバイザーとの連携

MIM指導者研修会の実施

早期支援研究事業運営委員会の実施

ブロック研修会の実施

発達障がい研修会の実施

多層指導モデルMIM啓発リーフレット作成

国立特別支援教育総合研究所・こども発達支援センター等との連携

発達障がい支援アドバイザー・スクールカウンセラーによる巡回指導

教育課程上での位置付けや指導方法の確立

読書力診断検査の実施

発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援指導重点校の指定

多層指導モデルMIMの取組

指定校・重点校の取組

指導方法の工夫改善

すべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業

- ・動作化・視覚化
- ・環境整備
- ・実態把握と個に応じた指導

学習面・行動面での配慮

- ・早期に支援を要する児童の個別の配慮や指導
- ・視覚的・聴覚的な刺激の軽減等

適切な実態把握等による早期支援の実施

- ・アセスメントの実施
- ・ブロック研修会の開催
- ・自校でのデータ処理による速やかな個別の配慮の実施
- ・個別の配慮計画をもとにした授業交流
- ・児童の実態把握と共通理解
- ・関係機関との協働支援
- ・スクールカウンセラーの活用
- ・教育相談の実施
- ・個別配慮のPDCA化
- ・個別の配慮のフローチャート作成
- ・就学前と連携した入学直後からの支援

子どもの課題

発達障がい研修会

子ども自身や家庭での育て方に問題があるわけでもないのに、学習や行動するときに困っている子どもたちがいます。そんな子どもたちが自分の力を十分発揮できるように、その特性に気づき、正しい理解に基づく適切な支援を周囲の人たちが協同して行うことが大切です。飯塚市では、発達障がいについての理解と認識を深め、保護者・学校・こども園・幼稚園・保育所(園)・児童クラブ・地域・行政・関係機関など、それぞれが連携した指導の充実に役立てるために、毎年秋に関係職員及び市民の方々を対象に「発達障がい研修会」を開催しています。

発達障がいのある子どもの教育

発達障がいには、かなり広範な種類の障がいが含まれますが、その中からLD、ADHDについて、その特徴と、もてる力を高め生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導について例を示します。

LDとは

LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論するなど学習に必要な能力のうち、特定の分野だけに著しい困難を示す状態の障がいです。

ADHDとは

ADHDとは、年齢や発達段階に不釣り合いな注意力や多動性・衝動性を特徴とする行動の障がいです。

社会的な活動や学校で学習する上で様々な場面で困難を示すことがあります。順番を守るのが苦手であったり、相手の話をさえぎったりするなど、友達との人間関係がうまくつukれないことも見受けられます。

LD・ADHDの子どもの指導

それぞれの障がいの状態に応じて、困難を示す状態や行動を改善していく支援が行われます。注意がそれやすい子どもに対しては、余分な刺激を少なく活動しやすい学習環境を整えるなどの支援が行われています。また、周囲の子どもとのかかわりが難しいために自信を喪失している子どもがいることから、安心できる小集団での学習や、得意な面を生かして自信を取り戻せるような学習などが行われます。

飯塚市には、市内の発達障がいの可能性のある小中学生を対象とした通級指導教室が飯塚小学校と高田小学校、飯塚第一中学校に設置されています。

通級指導教室とは

- 通常の学習は、在籍する学校の学級で行いつつ、決まった時間に通級指導教室で学習します。(他校からの通級の場合、通級指導教室までの送迎は保護者が行います。)
- 学習は、個別または小集団で行います。
- 指導に当たっては、一人ひとりに応じた目標をたて、個別の指導計画をもとに効果的な指導の工夫を行います。
- 子どもの自立を支援するために、在籍校や保護者、医療機関等との連携・協力を努めます。

入級相談について

在籍校の校長先生を通じて、ご連絡をください。子どもの行動や学習、集団参加などについての相談を受け付けています。

お問い合わせ：飯塚市教育委員会 学校教育課 【0948-22-0380】